『言語情報学研究報告』No.10（2006）

E-learning 教材における第二言語学習についての基礎調査

橋本　ゆかり
（東京外国語大学大学院博士前期課程）
森本　暁美
（東京外国語大学大学院博士前期課程）

はじめに　－本調査の目的－

本稿は，東京外国語大学大学院地域文化研究科 21 世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」プロジェクトの一環として開発が進められている『TUFS 言語モジュール[1]』の中で，現在作成が予定されている『TUFS 日本語会話モジュール学習者ガイド』（以下，『学習者ガイド』とする）に対し，既存の第二言語学習用 E-learning 教材より示唆を得ることを目的に行った基礎調査である。また，本報告集掲載の海野ほか（2005）「『TUFS 日本語会話モジュール学習者ガイド』開発のための理論的枠組み」が，『学習者ガイド』作成の理論的枠組みについて論じているのに対し，本稿は，既存の L2E-learning 教材のコンテンツやサポートツールにはどのようなものがあるかを調査し，その結果得られたサポート機能の実例の中から，『学習者ガイド』には具体的に何を盛り込んでいけるかという，より実践的な側面から示唆を得ようとするものである。

『TUFS 言語モジュール』とは，東京外国語大学大学院で開発中の E-learning 教材であり，17 言語の学習に対応している。各言語は，発音•会話•語彙•文法の 4 つのモジュールから構成されている。本稿で扱うのは，この中の言語の 1 つである日本語の会話モジュールである。会話モジュールは機能シラバスに基づき，40 の会話機能および場面から成る。なお，会話モジュールのユニットの設定については，松本（2004）「初級日本語教科書シラバスの分析と TUFS－D モジュールの設定試案及びその妥当性に関する考察」に詳しい。

『TUFS 言語モジュール』は，時間や場所の制限がなくインターネットで誰でも無料でアクセスすることができ，一斉学習での教室利用だけでなく，セルフ•アクセス学習や自己学習など，様々な形態での利用が見込まれる。こうした利用形態では，教師の介入度が低いため，コンテンツ内に学習者自身の学習管理や継続を支援するサポート機能が必要になってくる。

そこで本稿では，既存の第二言語学習用 E-learning 教材の中にある，主に教師の介入度

[1] 『TUFS 言語モジュール』東京外国語大学地域文化研究科 21 世紀プログラム「言語運用を基盤とする言語情報拠点」URL: http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/index.html

が低い利用形態の学習に有効なサポート機能について調べ，その分類を試みる。そして，その結果を踏まえ，現在『TUFS 言語モジュール』の中で既に開発が進められているものも考慮に入れながら，今後『TUFS 言語モジュール』にどのようなサポート機能が必要になってくるのか，また，『学習者ガイド』には何を盛り込むことができるのかを述べてみたい。

1. 用語の定義

1-1. 第二言語学習用 E-learning 教材とは

一般的に第二言語学習では，コンピュータを利用した教育について，E-learning， CAI，CALL などの用語が用いられる。特に，インターネット技術を利用した学習を E-learning と呼ぶことが多いが， E-learning という用語の定義はあまり明確ではないようである。なお，これについては本報告集掲載の海野ほか（2005）に詳しいのでそちらを参照されたい。

コンピュータやインターネットを利用した学習は，第二言語学習だけでなく様々な分野で急速に普及し，それに関連する用語も一般化してきている。コンピュータ用語辞典などを見てみると，E-learning とはパソコンやコンピュータネットワークなどを利用した教育を指すものであり，厳密には Web ブラウザなどのインターネット・WWW 技術を使うものに特定したものを表すわけではない。このような場合は特に「WBT」（Web Based Training）や「Web ラーニング」などと呼ぶことができる。（Yahoo!「コンピュータ用語辞典」[2]）そのため，第二言語学習用教材では，インターネットを利用せず，CD-ROM などを媒体としたものであっても E-learning 教材として提供されていることが少なくない。

しかし，本稿は『TUFS モジュール』と同様にオンライン上でアクセスできる L2E-learning 教材との比較において，その開発に役立つ要素を抽出することを目的とする。そこで本稿では，Web ブラウザなどのインターネット・WWW 技術を利用したもので，コンピュータネットワーク内の利用者が，自由にアクセスすることができる第二言語学習用教材を第二言語学習用 E-learning 教材（以下，L2E-learning 教材）と呼ぶことにする。

1-2. L2E-learning 教材のサポート機能とは

先行研究等では，L2E-learning 教材の中に備えられたサポートツールや学習を補助するコンテンツなどについて，これを特定の機能を持つものとして取り上げた名称や定義などは，あまりはっきりしていないようである。そこで本稿では，L2E-learning の際に生じる様々な問題を補うためのサポートツール，コンテンツ，リンクなどを一つの共通した役割を持つ教材上の機能として捉え，これを L2E-learning 教材におけるサポート機能と呼ぶことにする。

---

[2] Yahoo!「コンピュータ用語辞典」URL: http://computers.yahoo.co.jp/dict/

2. L2E-learning におけるサポート機能の必要性

2-1. 『TUFS 言語モジュール』の利用形態上の問題

『TUFS 言語モジュール』は，多言語を学習することができ，インターネット上で誰でも利用できる画期的な L2E-learning 教材である。そして，このような性質上，幅広い学習者による様々な学習形態での利用が見込まれる。海野（2004）は教師の介入度の観点から，利用上の問題点を指摘している。すなわち，教師の介入度の高い場合，例えば教室での一斉学習のような場合の利用では，教師の管理の下で学習が進められ，学習の継続や達成が比較的容易である。これに対し，教師の介入度の低い場合，例えば，セルフ•アクセス学習や自己学習などの場合は，それまで教師に任されていた学習管理や学習計画といった部分を学習者が自分で行わなければならなくなり，学習者自身の高い自律性や学習ストラテジーが必要とされる。セルフ•アクセス学習とは,「セルフ•アクセス•システム（つまり，セルフ•アクセス•センターを中心に教師，学習者，学習リソースが組織される学習環境およびその組織）の中で自律的に学習する学習形態のこと（Gardner and Miller1999，海野 2004 訳)」である。また，高見澤（2004）は「学習者が自らの誤りに気づかず学習を進めてしまう可能性がある」という点も指摘している。これも，学習を管理する教師の不在から生じる問題点である。

さらに，高見澤（2004）は E-learning の不利な特性として「講師との交流が薄い」,「クラスメートや教室の雰囲気などから受ける刺激が弱い」などの点を指摘している。これも，教師の介入度が低い場合の学習を想定した L2E-learning の短所といえる。このようなことから学習動機が低下し，学習の継続が難しくなる可能性も考えられる。

したがって，自己学習やセルフ•アクセス学習で『TUFS 言語モジュール』のような L2E-learning 教材を利用する場合には, 学習者が自らの学習管理や継続を促進するようなサポート機能が必要になるのである。

2-2. 教師の介入度が低い場合の L2E-learning における学習ストラテジー上の問題

『TUFS 言語モジュール』の利用上の問題には，自己学習やセルフ•アクセス学習という利用形態に由来するものと, L2E-learning 教材というリソース自体の特徴からくるものがあると思われる。そして，このような問題は L2E-learning における学習ストラテジーの問題として捉えることができる。つまり，L2E-learning では，教室での一斉学習や，それまで学習者が自己学習で用いていた学習方法とは異なるストラテジー使用やアプローチが必要となるため，それに上手く対応できない場合，問題が生じるのである。海野（2004）は L2E-learning で起こりうる学習ストラテジー上の問題として，それまで教師に任されていた学習の計画，運営，評価といった管理を学習者自身が行なえず継続が難しくなること，E-learning という新しいタスクを行なう際，タスク知識が十分でないことから適切なストラテジーが使えなくなること，学習動機を維持するのが難しく，継続に困難を感じることが多いこと，社会的インタラクションの欠如が，学習者の言語運用に対するフィードバックとモニターの不足や, 学習動機の低下につながる恐れがあることなどを挙げている。

このような学習ストラテジー上の問題に対処するため，L2E-learning 教材ではサポート機能が必要なのである。なお，第二言語学習ストラテジーの定義や分類については，海野ほか（2004）「第二言語学習ストラテジーについての基礎調査」に詳しい。

3. サポート機能の枠組み

では，L2E-learning サポート機能の枠組みとして，実際にどのようなものが考えられるであろうか。Dickinson（1987）は，自己学習，セルフ•アクセス学習を想定した教材には，教師の管理のもとで行なわれる教室での一斉学習で使用することを想定した教材とは異なる配慮が必要であることを指摘し，自己学習およびセルフ•アクセス学習で使用する教材に含まれるべきものを挙げている。この中で『TUFS 言語モジュール』にも参考になる部分を以下にまとめてみる。

1）明示的な学習目標の提示：学習目標が明確に示されていると，学習を進めやすくなるだけでなく，学習者が自分の学習に責任を持つようになる。

2）意味のあるインプット：自律的学習では，インプットの主な部分は教材から得ることになるので，これらが教材の中で理解しやすいようにまとめられているべきである。例えば，イラスト，発音方法の表示，テキストを簡単な言葉で書き換えたもの，翻訳や語彙解説などがあるとよい。

3）練習やアクティビティー：学習者のタイプや個々の目的に合わせられるように，十分な量，かつバラエティー豊かな練習やアクティビティーがあるとよい。これらに広い選択肢があることで，学習者の興味を持続させる効果も期待できる。

4）教材の柔軟性：教材の学習方法が特定されすぎていると，学習者個人の学習ストラテジーや学習スタイルとの間に摩擦が生じ，教材が指定した方法以外の学習方法を取ったとき，学習者は自分が間違ったことをしているかのように感じてしまうこともある。

5）学習方法の提示：学習者の母語による分かりやすい指示が，教材全体や各ユニットに必要である。アクティビティーの順序や勧め方，所要時間や全体の学習期間などの提示があるとよい。

6）言語学習についてのアドバイス：練習問題のやり方，語彙学習の方法，辞書や文法書などの使い方，学習計画について，自分自身の動機を高める方法，学習を達成する方法，進歩状況のレコードキーピングなどの提示があるとよい。

7）フィードバックやテスト：問題の解答と解説が必要である。さらに，なぜ間違えてしまったのか，どうすれば正答へ辿り着けるのかということの説明や，ポイントに

ついての簡潔な説明があると，その問題ができなかった学習者にだけでなく，正しく答えられた学習者にも役に立つ。

8）レコードキーピングについてのアドバイス：レコードキーピング機能があると，自分の進歩状況がわかり心理的な支えになる。数字やグラフで練習問題やテストの成績が記録されるとよい。

9）レファレンス：様々な文法書や参考書があるが，最も便利なのは使っている教材そのものである。教材中の参考情報はその中に出てくるものに限定し，学習者のレベルに合わせて説明を付けたり，図やイラストなどを効果的に取り入れるなど，分かりやすい形で提示するとよい。また，ユニット間に渡るクロス•レファレンスもあるとよい。語彙解説があると，後で既習語彙を確認したり，意味を確認したりするのに役立つ。

10）インデックス：インデックスがあると，学習者は自分で文法や談話のポイントを調べることができる。また，学習者の個々の目的に合わせて特定の情報を探すこともできるので，自己学習教材としてより使いやすくなる。

11）動機を高める要素：教材が魅力的に見えることが大切である。レイアウト，字体，配色，イラストなどに工夫をするべきである。また，アクセサビリティーも主な要素となる。即ち，説明が分かりやすいか，学習項目がよく整理されているか，ユニットサイズが大きすぎないかなど，教材の使いやすさも問題となる。さらに，学習目標をただ提示するのではなく，なぜそのような方法でその目標を達成するべきなのかという部分まで説明があるとよい。

12）学習の進歩についてのアドバイス：学習の進歩状況は学習動機に影響を与える。セルフ•アクセス•センターで学習する学習者は，自分の学習方法に自信がなく，やる気を失ったり不満を感じたりしがちである。そのため，学習者が特定の目標に向けてどのように学習を継続すべきかアドバイスをすることが必要である。また，目標言語を生のコンテクストで使う機会を見つけられるようにアドバイスすることも効果的である。

Dickinson （1987） に示されたものは，セルフ•アクセス学習や自己学習をサポートするものであり，本稿のサポート機能の内容を考える上で大きな示唆を与えている。海野（2004）は，この Dickinson （1987） に基づき，自己学習やセルフ•アクセス学習における L2E-learning に必要な要素を以下の 3 点にまとめている。

1）学習管理を助ける要素：明確な目標提示，レコードキーピングシステム，学習者が

自分の学習を評価しフィードバックが得られるシステム，練習問題の正答と解説，各モジュール間のリンク，学習者が自身の達成度を計れるセルフ・アセスメントチャートなどの工夫，学習方法についての明示的な助言，モデルルートの提示

2）学習上の柔軟性を高める要素：各モジュールを関連付けるインデックスシステムの充実，より深く学習したい場合のレファレンスとしてのリンク，他の教材や参考図書などリソースの提示

3）学習動機を高める要素：魅力的なレイアウトや色彩，豊富で効果的な視覚的補助，短く，使いやすいユニットサイズ

海野（2004）の分類は，教師の介入が少ない場合に必要とされる L2E-learning のサポート機能を体系的に示しており，本稿で調査するサポート機能の枠組みとして用いることができる。したがって，本稿ではこの枠組みを使用し，既存の L2E-learning 教材にみられるサポート機能内容の分類を試みる。また，上記のサポート機能的要素はそれぞれ独立したものではなく，それぞれが有機的に関わり合っていると考えられる。例えば，学習方法についての明示的な助言やモデルルートの提示は直接的には学習管理を助ける要素であるが，これが心理的な支えとなり，動機が高まるという効果も期待できるであろう。

4. 調査

4-1. 調査対象

調査対象には，外国語・第二言語学習を目的とした E-learning 教材を広く取り上げ，有料サイトのサンプルなどを含む無料でアクセス可能な 57 サイト（添付資料参照）を対象とした。今回調査対象として取り上げた L2E-learning 教材は，企業や団体などが作成した規模の大きなものから，個人レベルで運営しているもの，有料のもの，無料のものなど様々であり，学習対象の言語にも偏りがある。しかし， 世界各国で非常に多くのサイトが公開されており，Web 上の全ての学習教材を網羅的に調査することは，不可能に近い。また，今回の調査目的は既存の L2E-learning 教材における学習サポート機能を取り上げ，TUFS 日本語会話モジュールの『学習者ガイド』へ生かすことであるため，本調査では，英語，日本語，中国語，韓国語などの学習教材を中心に，アクセスの可能な L2E-learning 教材を取り扱うことにした。

4-2　調査方法

既存の L2E-learning 教材一つ一つについて，言語学習をサポートする機能と考えられるものを全てリストアップし，同じまたは似ていると考えられる機能のグループにまとめ，それらを海野（2004）の枠組みに当てはめた。

4-3　調査結果

上記の方法で分類を行なったところ，既存の L2E-learning 教材のサポート機能には主に以下のようなものが見られた。

1）学習管理を助ける要素を持つ機能：
（ア）レコードキーピング
① 個人学習の管理
② 他の学習者の学習状況の参照
（イ）カウンセリング・質問への回答
（ウ）明示的な学習目標の提示
（エ）学習方法の提示
（オ）テスト・練習問題
① プレースメントテスト
② 練習問題・理解度確認テスト

2）学習上の柔軟性を高める要素を持つ機能：
（ア）文字・音声・映像の目的に合わせた利用
（イ）レベル選択
（ウ）他のリソースの提示
① 他のサイトへのリンク
② オンライン辞書・ウェブ検索
③ 他のリソースの紹介
（エ）コンテンツ内の相互リンク
（オ）携帯電話サイトとの連動
（カ）印刷
（キ）インデックスシステム

3）学習動機を高める要素を持つ機能：
（ア）エンターテイメント的要素
① ゲーム
② 効果的デザイン・BGM 等
（イ）検定試験などの情報
（ウ）毎日・定期的な更新
（エ）メールマガジン
（オ）ユニットサイズが短く，学習しやすい

以下でそれぞれのサポート機能の詳細を見ていく。

1）学習管理を助ける要素を持つ機能：

（ア）レコードキーピング

① 個人学習の管理

利用者登録をすることで，学習者が自分の学習管理をするページを持てる機能である。個人ページを持つことで，自分がどの課を既に学習しており，どれが未習なのか，学習状況を Web 上で把握できる。1 課の中のどの部分まで進んだのか，課内の学習状況まで細かく把握できるサイトもある。

例えば，財団法人海外技術者研修協会の『WBT AOTS 日本語コース』では，上記の学習状況の管理に加え，各課の確認テストの成績が記録され，テストを受けた日時，弱点，複数回同じテストを受けた場合には，その進歩の過程も記録される。

② 他の学習者の学習状況の参照

レコードキーピング機能があれば，個々の学習者の学習状況を記録するだけでなく，他の学習者の学習状況を参照することができる。これを利用したランキングの機能では，同じ L2E-learning 教材で学習している他の学習者と一緒に競い合うことができる。ランキング機能によって，自分のランキング推移が記録されるだけでなく，どんな学習者が利用しているか分かる。例えば，英語の単語学習サイトである『単語力』にはこのような機能が提供されている。これにより，学習動機を高めることも期待できる。

また，自分のプロフィールやコメントを公開したり，他の学習者のプロフィールやコメントを見たりすることができるものもある。さらに，中国語学習サイトである『あいうえお中国語』では，曜日と時間の設定により，学習者同士にチャットの場も用意されている。自己学習の場合，クラスメートや教室がないため，周囲から受ける刺激が無いという欠点があるが，他学習者の学習状況やコメントを見られる機能は，擬似的なクラスメートを作る役割を果たし，この不利な点を補うことができるのではないだろうか。

（イ）カウンセリング・質問への回答

特に有料のサイトなどでは，Web の向こうに「教師」が存在し，学習者にカウンセリングや学習評価などを行う機能がある。また，学習者が学習方法などについて疑問がある時，メールで質問すれば回答が返ってくる機能を備えているサイトもある。例えば，スペースアルクの『e マラソン TOEIC®テスト 730 点コース』[3]はこの機能を有している。Web 以外の教材では，通信添削の教材などに似た機能があると思われるが，Web には即時性があるため，学習者が必要な時にすぐ利用できるという利点がある。

（ウ）明示的な学習目標の提示

学習者に学習目標を明示的に示し，学習管理を補助する機能である。既存の L2E-learning 教材では，サイトの目的そのものが学習目標と直結したものが多く見られる。例えば，スペースアルクの『e マラソン TOEIC®テスト 730 点コース』は，TOEIC で

[3] 『e マラソン TOEIC®テスト 730 点コース』は 2005 年に配信が終了した。

730 点取得を目指すという具体的な目標を提示している。同じくスペースアルクの『たびえいご』は旅行で役に立つ英語表現を学ぶ，いわゆる旅行会話を学習するためのサイトであるとの明記がある。このような目標提示があると，その L2E-learning がどのような学習者を対象とし，何を学習させたいのかということがはっきり分かる。

（エ）学習方法の提示

タスクなどのやり方や，その教材の使い方，進め方などを提示する機能である。L2E-learning 教材の中には，コンテンツの利用方法や進め方が明確に定められていない場合がある。このような場合，1 クリックでどこへでも飛んでいくことができるという L2E-learning 教材の性質により，どのように学習すればよいのか学習者が迷ってしまう可能性がある。製本された第二言語学習用教材なら，ページの順序に従って進むという方法が取れるが，L2E-learning では特にわかりやすい学習方法や進め方が提示されているほうがよい。

既存の L2E-learning 教材では，例えば『WBT AOTS 日本語コース』では，英語，中国語，タイ語，インドネシア語，ベトナム語でコース全体の学習方法やアイコンの使い方について説明がある。また，各ユニットなどの進め方では，サイトの指示通りに進んでいけば正しい順序で進められるようになっていたり，トップページなどの見やすい位置に，図やイラストで分かりやすく進め方が示されていたりするものが多く見られる。それ以外には，画面が切り替わる時などに，「次は『練習』へ進んでください」など，直接指示が出るものもある。

（オ）テスト・練習問題

① プレースメントテスト

積み上げ式の学習サイトでは，自分の現段階の能力がどこに位置して，どこから始めればよいのかを知るために，プレースメントテストが用意されているものもある。そのテスト結果によって，自分が学習を始める位置が決定できるため，学習管理のためのサポート機能であるといえるだろう。

韓国の鮮文大学マルチメディア外国語教育研究所の『C&C Japanese』では，プレースメントテストの内容が毎回異なり，何度でもテストを受けることができる。そのため，学習を始めてからでも再度プレースメントテストを受ければ，自分の進歩状況が分かる。

② 練習問題・理解度確認テスト

学習した内容の理解度を確認するための練習問題やテストは，多くの学習サイトで提供されている機能である。L2E-learning 教材でなくとも，テスト・練習問題は存在するが，L2E-learning 教材に特有の機能は，コンピュータが解答時間を測定し，採点，フィードバックを与える点にある。

例えば，『単語力』の単語テストには，時間測定，採点，解説としての辞書サイトへのリンク，他の学習者と成績を競うランキング，成績の推移を示すグラフなどの機能がある。

財団法人海外技術者研修協会の『WBT AOTS 日本語コース』では，各課にテストがあるが，テストが終わると採点され，成績が表示される。問題が「ことば」「ききとり」「ぶんぽう」に分かれており，それぞれ正答率も表示されるので，簡単に自分の弱点を把握することができる。また，成績表のページで問題番号をクリックすると，再度同じ問題に挑戦できる機能があり，できなかった問題を解きなおして復習することができる。機能シラバスで会話を中心とした L2E-learning 教材の『C＆C Japanese』では，スキットの内容や重要文型や表現の理解を確認する選択式の問題や，ダイアローグの音声が再生され，役割練習ができるようになっているものもある。

2）学習上の柔軟性を高める要素につながる機能：

（ア）文字・音声・映像の目的に合わせた利用

文字・音声・映像を同じ画面上で目的に合わせて利用できる機能である。これは多くの E-learning 教材で利用されている機能である。

例えば，文字・音声・映像のいずれか，またはその一部を自在に表示・非表示に切り替えることができる機能がある。文字が必要なければ非表示にすることができるし，会話練習では，あるパートの音声を消して自分がそのパートとして練習することもできる。例えば，『C&C Japanese』には，このような機能が提供されている。

また，文型や語彙，さらに文化事情なども，写真やビデオなどの視覚的補助により効果的に学習することができる。これらを，比較的簡単に取り入れることができるのも L2E-learning の優れた特性であり，このような機能を有するサイトは多く見られる。

（イ）レベル選択

学習目的に合わせて，レベルを選択できる機能を持つサイトもある。例えば，『C&C Japanese』では，衣・食・住などそれぞれのトピックが，初級・中級・上級で構成されているため，レベル別に学習することもできるし，あるトピックについて初級から上級まで学習することもできるようになっている。

（ウ）他のリソースの提示

辞書サイト，他の教材へのリンクが豊富であったり，参考図書の紹介が充実していたりすることも，学習に役立つ機能である。他のリソースを与えることで，当該のサイトだけでは提供しきれない内容や機能を補うことができる。それによって，個々の学習者の学習スタイルやストラテジーに応じた多様な学習を可能にし，学習の柔軟性を高めることができる。また，学習者の動機が高められることも期待できるであろう。

① 他のサイトへのリンク

他のサイトへのリンク機能も，多くのサイトが利用している機能である。例えば韓国語学習サイトである『韓国語の愛ちゃんネット』では韓国語学習書籍や，他の韓国語学習 L2E-learning 教材の紹介がある。また，東洋経済日報の『韓国語講座』では，同サイト内

で「韓国ガイド」として韓国の地理，気候，行政などを紹介しているが，その他に韓国関連機関・企業・ホテル・交通機関など，さまざまな情報サイトへのリンクを張っている。

② オンライン辞書・ウェブ検索

一般に提供されているオンライン辞書を，L2E-learning 教材の中から直接リンクしたものがある。例えば英単語学習教材の『単語力』は，自分で文字を入力することなく，わからない単語をクリックすれば直接 13 種類のオンライン辞書で調べることができる。

辞書だけでなく，学習表現をウェブ検索して，実際の例文を見ることができるように，検索エンジンを埋め込んでいる L2E-learning 教材もある。『NIHON MURA オンライン日本語練習』ではこのような機能が用意されている。

③ 他のリソースの紹介

他のサイトへのリンクだけでなく，参考図書等の紹介や，教師向けに様々な指導例などを紹介しているものもある。

（エ）コンテンツ内の相互リンク

コンテンツ内で単語や文型，漢字などがリンクされていると，わからない時や忘れた時に，いつでもクリックだけで参照することができる。他の媒体の学習教材ではなしえなかった，コンピュータを利用した教材特有の長所であると考えられる。

例えば，日本語読解教材である『リーディングチュウ太』では，クリック一つでサイト内の辞書で意味を調べることができる。また，このように辞書を使用した単語が自動的に学習者個人の単語帳にストックされる機能もある。

（オ）携帯電話サイトとの連動

レコードキーピング機能とも関連するが，携帯電話のインターネットサイトを，パソコンのサイトと連動させる機能がある。英語の単語学習サイトである『単語力』では，携帯電話のウェブサイトも用意されていて，パソコンサイトと共通のアカウントで個人ページが利用できる機能を備えている。携帯電話を利用した L2E-learning 教材サイトは，パソコン以上にいつでもどこでも学習可能であり，有効に活用することができるだろう。

（カ）印刷

オンラインのものを必要に応じて印刷し，オフラインの時にも学習を続けられる機能である。E-learning 教材は，インターネットにつなげる環境がなければもちろん利用できない。印刷したものがあれば，手軽に持ち運ぶことができるし，自由に手で書き込むこともできるという利点がある。

例えば，AJALT の『Survival Japanese』では，文法解説や単語リストが PDF 形式でダウンロードでき，簡単に印刷ができるようになっている。また，中国語学習サイトである『中国語電脳学習室』でも有料のユーザーを対象に印刷機能が用意してあり，単語帳な

どが印刷できる。その際，中国語の日本語訳や発音記号の表示・非表示が自由に切り替えられるので，非表示の部分を問題にして解く練習をすることができる。また，子供向け英語教材である PBS KIDS の『Between the Lions』では，200 種類以上の単語やイラストのカードなどが Web ページからそのまま A4 サイズに印刷できるようになっており，教える側である親や教師に教材を提供している。

（キ）インデックスシステム

文型や語彙を初めとする学習項目をまとめたインデックスを表示する機能である。インデックスがあると，学習者はそれぞれのニーズに応じて学習項目にアクセスすることができる。これは，自己学習やセルフ・アクセス学習での利用を想定した L2E-learning 教材には必要な機能であろう。例えば，NHK の『100 語で学ぼう英会話』は，コーパスから選ばれた重要動詞 100 語にかかわる表現を学ぶテレビ番組のホームページで，説明やテストと学習過程が記録できるレコードキーピングシステムがあるが，そのレコードキーピング機能である部分は，学習する動詞の一覧表になっており，インデックスとしても役に立つ。

3）学習動機を高める要素を持つ機能：

（ア）エンターテイメント的要素

① ゲーム

練習問題やテストとは別に，言葉を使ったゲームができる機能が用意されている L2E-learning 教材がある。コンピュータゲームに親しんでいる学習者にとっては，楽しく学習できるため，ゲームで気分転換をすることによって，高見澤（2004）の言う，学習の場が自宅などであるため学習への集中力が弱まる可能性があるという E-Learning の不利な特性を補うことができるであろう。『WBT AOTS 日本語コース』の漢字学習サイト『漢字 100』や，韓国語の文字を覚える『韓国料理を食べながらハングルを覚えよう！』などではゲームの要素が取り入れられている。これ以外にも，ゲーム機能を備えた L2E-learning 教材は数多く見られる。

② 効果的デザイン・BGM 等

L2E-learning 教材上では，文字・音声・映像が自由に使えるため，コンテンツ以外に様々な効果を取り入れているものが多い。目標言語の音声だけでなく，BGM を流してリラックスの効果を図ったり，効果音を取り入れたりして楽しく学習できるように工夫されている。例えば，『C&C Japanese』ではトップページにアクセスすると音楽が流れ，フラッシュで映像や文字が移り変わっていくよう，デザインに工夫がされている。

（イ）検定試験などの情報

サイト外の情報の提供という点では「他のサイトへのリンク」と似ているが，サイトの外部の試験である検定試験の情報などをサイトで提示することも，学習者に試験を目標とさせることで学習動機の維持につながる機能であると考えられる。

例えば，中国語学習サイトである『中国語電脳学習室』では，検定試験までの残り日数がトップページに表示され，毎日カウントダウンされていく。『e マラソン TOEIC®テスト 730 点コース』では，学習者個人のページのカレンダーに TOEIC の試験日や申込締切日が表示される。そのため，学習者は試験を意識しつつ，学習動機を高めることができる。

（ウ）毎日・定期的な更新

多くのサイトは，それほど頻繁にコンテンツが追加されることはないが，毎日または定期的にサイトを更新しているものもある。他の媒体の学習教材では，新しいコンテンツを出版したりするのは容易ではないが，E-learning 教材ならいつでも新しいものを出すことができる。

例えば，中国語学習サイトである『中国語電脳学習室』では，毎日 10 問の単語問題が出題されるため，学習者はその日に更新された内容を学習することで，学習のペースを保つことができる。孤独な学習からくる動機の低下を防ぐ機能であるといえる。

（エ）メールマガジン

普通，学習者はそのサイトに自らアクセスしなければ学習できないが，登録しておくことによって，サイトにアクセスしないときでも，メールマガジンが送られてくる機能がある。これも，学習者の学習ペースを保つ機能であるといえるだろう。E-learning 教材サイトがあってメールマガジンが送られてくるものと，発行したメールマガジンをサイトにまとめているものがある。上記の『中国語電脳学習室』からは，毎日更新された内容がメールマガジンでも送られてくるため，毎日忘れずに学習をすることができる。

（オ）ユニットサイズが短く，学習しやすい

各ユニットが小さく，利用しやすいように整理されていると，動機を高めることにつながる。既存の L2E-learning 教材にも，このような配慮のある教材は多く見られる。

5. TUFS 日本語会話モジュール学習者ガイド開発への示唆

以上，既存の言語学習 L2E-learning 教材において，学習をサポートする機能にはどのようなものがあるのかを見てきた。それでは，日本語会話モジュールの『学習者ガイド』には，これらの中からどのような機能を取り入れることができるだろうか。これまで見てきたもの中には，『TUFS 言語モジュール』に既にあるものや，現在作成中の機能もある。これらについても考えながら，サポート機能として『学習者ガイド』の中に盛り込めるものは何か，また，今後『TUFS 言語モジュール』や日本語会話モジュール作成にどのような示唆を得ることができるかを考えてみたい。

5-1. レコードキーピング機能

まず，学習管理を助ける要素を持つ機能としては，レコードキーピング機能を取り入れ，どのユニットを学習したのかを管理できるようにすることができる。特にモジュール式の

教材であるため，学習者は何が既習で，何が未習なのかを把握するのが難しいからである。ただし，この機能は日本語会話モジュールの『学習者ガイド』としてではなく，発音，文法，語彙，また他の言語も含めて開発される機能となるだろう。現在この機能は TUFS E-learning system で学内利用に対しては開発が進んでいる。将来的には，一般のユーザーに対しても利用可能になることが望ましい。

5-2. 明示的な学習目標の提示

自己学習やセルフ•アクセス学習用の教材にとって，明示的な目標の提示は欠かせない要素であり，『TUFS 言語モジュール』でもこの点をユーザーに対して明らかにするべきであろう。これは『学習者ガイド』に盛り込んでいける機能である。例えば，日本語会話モジュールの利用に適した学習者のレベルを明示したり，「キャンパスライフで用いる会話の機能や場面に応じた自然な会話ができるようになる」など日本語会話モジュールの具体的な到達点を示したりすることができるであろう。日本語会話モジュールは，ダイアローグの内容が全くの初心者に向けて作られておらず，学習者が文法の基礎知識を持っているかことが前提となる。このためにも，レベルやその学習目標は明確に提示すべきであろう。

5-3. 学習方法の提示

学習方法の提示については，すでに「利用の手引き」として「ダイアログモジュール（D-module）学習モデルチュートリアル～効果的な学習の進め方～」が紹介されている。ここでは，学習モデルとして「ロールプレイモデル」「音読モデル」「ディクテーションモデル」「コピーイングモデル」とそれぞれの学習目的が提示され，学習者が自分の目的に合わせてモデルを選択することができる。また，「学習者用」のユニット内では，学習者は指示通りに進めばよいように作られており，タスクの提示ごとに指示も分かりやすく示されるので，学習者は迷うことなく学習を進めることができるであろう。

しかし，指示は今のところ日本語であり，『TUFS 言語モジュール』を利用することが想定される学習者には，指示自体が難しい。今後，これらの一部は翻訳される計画があるようであるが，「ダイアログモジュール（D-module）学習モデルチュートリアル～効果的な学習の進め方～」の部分も含め，英語を中心とする多言語に翻訳され，一般のユーザーにも公開されるようになるとよいであろう。

また，ユニット内の学習方法や順序の提示ははっきりしているが，ユニット間，モジュール間ではまだ改善の余地があるだろう。例えば，日本語会話モジュールでは，40 の機能をどのように学習すれば効果的なのかまでは触れられていない。文法モジュールや語彙モジュールなど，他のモジュールと組み合わせて利用することも可能である。したがって，学習者の目的に応じたいくつかの学習モデルコースを紹介するとよいであろう。

さらに，日本語会話モジュールの 40 ユニットはそれぞれ難易度が多少異なるが，機能シラバスであるため難易度順に配列されているわけではない。どのユニットから学習してもよいというのは長所でもあるが，様々なレベルの学習者が利用することを想定した場合，どのユニットが比較的易しいのか，または難しいのかということが，一目で把握できるよ

うな表示があると便利であろう。したがって，提出される主要文型や語彙等をもとに各ユニットの難易度を示せば，学習者だけでなく，教師にとっても使いやすい教材になるであろう。

5-4. 会話モジュール中の語彙，文型，文化事情の解説とインデックスシステム

Dickinson（1987）が示すように，自己学習やセルフ•アクセス学習ではインデックスが大切な機能となる。インデックスがあると，学習者は自分の目的に合わせて文型や表現を

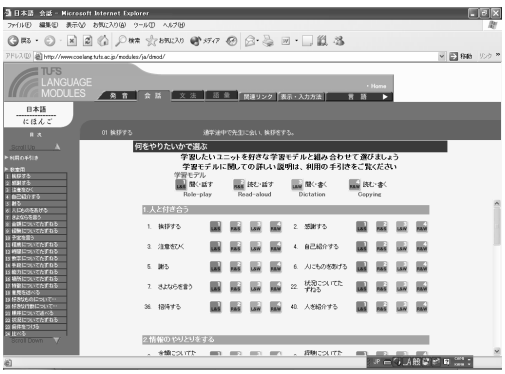
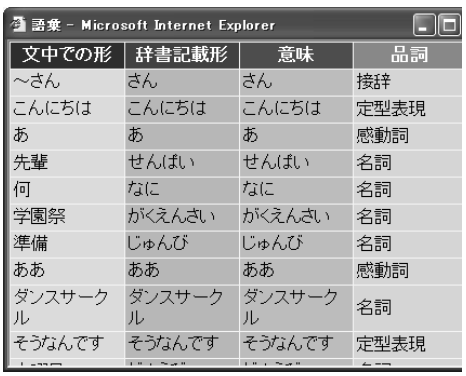


図 2　日本語会話モジュール開始ページ



文中での形	辞書記載形	意味	品詞
～さん	さん	さん	接辞
こんにちは	こんにちは	こんにちは	定型表現
あ	あ	あ	感動詞
先輩	せんぱい	せんぱい	名詞
何	なに	なに	名詞
学園祭	がくえんさい	がくえんさい	名詞
準備	じゅんび	じゅんび	名詞
ああ	ああ	ああ	感動詞
ダンスサークル	ダンスサークル	ダンスサークル	名詞
そうなんです	そうなんです	そうなんです	定型表現

図 3　語彙リスト（学習者用）

検索することができるので，学習の柔軟性を高めることができる。特に，L2E-learning 教材では，製本された教科書などと比べて何がどこで閲覧できるのか調べにくいため，インデックスシステムが重要な役割を果たす。

『TUFS 言語モジュール』会話モジュールのインデックスシステムとしては，開始ページのユニット一覧や，会話モジュールのユニット内の学習者用 R&S（reading and speaking）と R&W（reading＆writing），および教室用から表示できる語彙リストなどがある。

語彙リストでは，「文中での形」「辞書記載形」「意味」「品詞」が表示される。しかし，「学習者用」からアクセスできる語彙リストは，ある一定の順序で進んでいかなければ開くことができないため，このリストがどこにあるかを探し当てるのにも，コンテンツ知識が少ない学習者にとっては時間がかかるであろう。自己学習やセルフ・アクセス学習においては，学習者が自分の学習管理を行うことが大切である。そのためにも，既習語彙を確認したり，インデックスとして利用したりできるように，語彙リストはどこからでもアクセスできる分かりやすい位置に表示できたほうがよい。その際，語彙の各国語訳や説明が必要になるが，この開発は既に進められている。現在は，「教師用」のページから英語訳が表示できるようになっている。

また，語彙だけでなく文型や表現，日本文化事情などについても同様のインデックスと

解説があると便利である。キャンパスライフをテーマとした日本語会話モジュールには，日本滞在経験のない海外の学習者には分かりにくいような日本事情に関する語彙や表現が非常に多く出てくる。また，初級レベルの日本語学習者にとって，日本語会話モジュールに出てくる文型や表現はかなり難しいものなので説明が必要である。したがって，これらについても『学習者ガイド』の中に説明をつけたり，文法モジュールなど他のモジュールとのリンクで説明を補ったりするべきである。

さらに，オフライン時にも学習ができるように，『学習者ガイド』の説明や文型・語彙等のリストや解説部分は，必要に応じて A4 サイズ等に印刷利用できるようにすることも，学習の柔軟性を高める要素として大切である。

5-5. 練習問題やテスト機能

セルフ・アクセス学習や自己学習をする場合，自分の学習の達成度を評価することが難しいので，『学習者ガイド』の中に練習問題を盛り込むことが有効である。高見澤（2004）は E-Learning の不利な特性として，学習者が自らの誤りに気づかず，学習を進めてしまう可能性があることを指摘しているが，練習問題やテストの機能を用いれば，自己採点をしなくてもコンピュータが評価し，フィードバックを与えてくれるので，学習者は自分の弱点を把握することができ，この不利な特性を補うことができる。また，テストや練習問題に挑戦し，評価されることは学習動機の維持にもつながるであろう。

テストに関しては今後作成する計画があるが，例えば，テストに出された重要表現や語彙を，各モジュールの説明部分とリンクさせることも有効な解説方法のひとつである。また，テストと各モジュールの練習問題の成績や受けた日時などを記録するレコードキーピングシステムについても，一般ユーザーへの公開が実現するとよいであろう。

5-6. 他のリソースの紹介やリンク

学習上の柔軟性を高める要素につながる機能として，他のリソースの紹介を取り入れることができる。これも，日本語モジュールではまだ利用可能になっていないが，「関連リンク」として設置できるであろう。ただし，個々のユニット中の学習項目に関する内容や，文化紹介などで他のウェブサイトが参照できるものがあれば，『学習者ガイド』の中でも積極的にリソースの紹介をすべきである。Dickinson（1987）も指摘するように，目標言語を実際のコンテクストで使用する機会を与えることは学習を促進する。学習教材用に作成されたものであるため，会話モジュールのスキットの自然さには限界がある。したがって，教材自体で補いきれないこのような部分をリンクで補うとよいであろう。

5-7. サイトのデザインとエンターテイメント的要素について

学習動機を高める要素につながる機能で，『学習者ガイド』に取り入れられるものは，エンターテイメント的要素である。エンターテイメント的要素といっても，ゲームのようなものだけではなく，ここでは楽しく学習できるようにするための幅広い機能や，ページのデザインなども含めて述べたい。

まず，デザインについてであるが，多くのページが開いてもその内容が一度に表示されず，やや使いにくいと思う。一番下まで見るためには少しスクロールしなければならない。下までスクロールすると，上に表示された学習方法などの部分が見えなくなり，不便である。

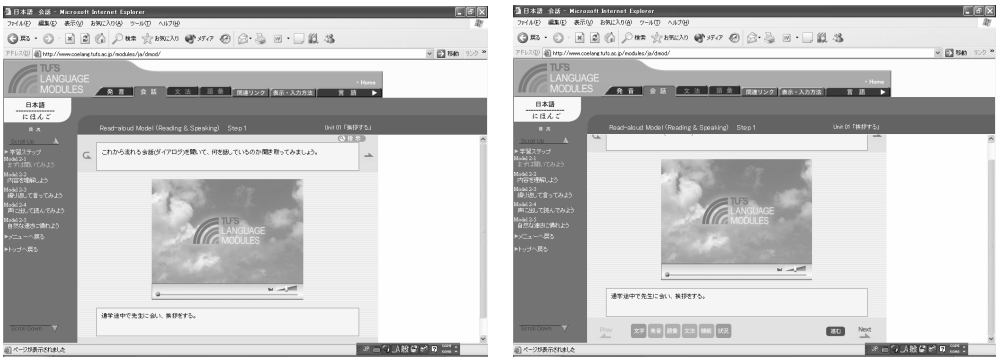


図 4　Reading and Speaking，Step1

上に示したのは同一ページを開いたときに示される画面（左）と，下までスクロールしたときに見える画面（右）である。このように，開いたときはそのページのタスクの指示が表示されるが，下までスクロールしないと「文字」や「状況」などのボタンが見えず，使い慣れていない学習者なら見落としてしまう可能性もある。これ以外には，教室用を利用して，教師が一斉授業で学習者にビデオを見せる時などのために，ビデオ部分だけが全画面表示できるような機能が必要である。

ダイアローグの内容的なエンターテイメント性では，学習者が日本や日本語の文化的側面に詳しくないため，見落としてしまう可能性があるものが少なくない。例えば，ユニット 6 で学生が先生に「つまらないものですけど，どうぞ。」と言って旅行のお土産を渡すシーンがあるが，受け取る側は「つまらないものってなに。」と応答する。海外などの日本の文化的な側面に詳しくない学習者にとっては，「つまらないものですが」と言ってお土産をわたす日本の習慣も新しく学習する事項の一つである。そしてさらに，これに対する「つまらないものってなに」が，本当につまらないものが何なのかを知りたいという言葉どおりの意味というよりも，むしろ良いものであると期待しつつ，軽い冗談のニュアンスを含んだものであるというところまで理解するには，やはり多少なりとも説明が必要であると思われるが，この説明にあたる部分が今のところない。このような部分も日本語会話モジュールの内容的なエンターテイメント的要素といえるが，説明が少ないためよく理解できず，その面白みも分からないまま終わってしまうという問題も生じうる。また，語彙のレベルでも文化事情的な説明がないため，学習者にとって分かりにくい部分が多々ある。例えば，日本語会話モジュールの 29 課に，「たぬきうどん」「きつねうどん」という語が出てくるが，これが何を指すのかの解説がまったくない。教師のいる教室学習では，教師が教材に不足している部分を補うことができるが，セルフ・アクセス学習や自己学習ではそれができな

い。しかし，もし説明があれば，学習者が理解できるだけでなく，興味を持たせることもできるであろう。

したがって，日本語の社会言語的側面や日本の文化事情などの説明についても『学習ガイド』に取り入れていくとよいと思われる。さらに，E-learning の長所を生かして，文化事情や時事的な情報は古くなりすぎないうちに更新できるとよいであろう。また，そこから日本の様々なウェブサイトにリンクを張ることも効果的である。既存の L2E-learning 教材にも目標言語の文化的情報を含んでいるものが多い。エンターテイメント的要素で学習動機を高め，学習を継続させる効果も期待できる。

6. まとめ

以上,「学習管理を助ける要素」「学習の柔軟性を高める要素」「学習動機を高める要素」という三つの枠組みから L2E-learning 教材におけるサポート機能を見てきた。既存の L2E-learning 教材には様々なサポート機能があり, 日本語会話モジュールにも取り入れるべきサポート機能が数多くあることが分かった。今後は，ここで考えてきたようなサポート機能が，技術面の問題なども考慮に入れ，どのような形で実現可能か模索しつつ『学習者ガイド』の作成を行なっていくことになるであろう。

【参考文献】

海野多枝（2004)「第二言語の学習ストラテジー研究：その成果と第二言語指導に向けての示唆」『言語情報学研究報告』No.2, 143-151, 東京外国語大学大学院

海野多枝・菊池富美子•野村愛（2004)「第二言語学習ストラテジーについての基礎調査」『言語情報学研究報告』No.5, 231-283, 東京外国語大学大学院

海野多枝・菊池富美子•野村愛（2006)「『日本語会話モジュール学習者ガイド』開発の基本方針と理論的背景」『言語情報学研究報告』No.10, 東京外国語大学大学院

高見澤孟（2004)「E-learning の学習理論の研究」『日本語教育研究』第 47 号, 1-17（財）言語文化研究所

松本剛次（2004)「初級日本語教科書シラバスの分析と TUFS－D モジュールの設定試案及びその妥当性に関する考察」『言語情報学研究報告』No.1, 83-93, 東京外国語大学大学院

吉冨朝子（2004)「学習者言語分析の変遷：その成果と第二言語教育へ向けての示唆」『言語情報学研究報告』No.2, 121-141, 東京外国語大学大学院

AJALT No.24　社団法人国際日本語普及協会　「特集日本語学習とインターネット」

Dickinson, L. (1987) Self-instruction in language learning. Cambridge: Cambridge

University Press.
Gardner, D. and Miller, L. (1999) *Establishing self-access: From theory to practice.* Cambridge: Cambridge University Press.
Oxford, R (1990) *Language Learning Strategies. What Every Teacher Should Know.* New York: Newbury House. [宍戸通庸・伴紀子訳（1994）『言語学習ストラテジー外国語教師が知っておかなければならないこと』凡人社]

【添付資料】　参考 URL リスト

※ ①URL　②目標言語　③媒介言語　④料金

1. **WBT ATOS 日本語コース　（財）海外技術者研修協会**
①http://nihongo.aots.or.jp/②日本語 ③英語・中国語・タイ語・インドネシア語・ベトナム語 ④有料　⑤『新日本語の基礎』『新日本語の中級』に準拠した，文字・初級・中級前半の学習
2. **L&L Kanji e-Learning System THE KANJI POWER , Language & Learning Technology Center** ①http://www.kanjilearn.com/index_j.php ②日本語 ③英語④漢字学習日本語能力試験にも対応
3. **MANGARAMA　東京工業大学赤堀研究室ホームページ**
①http://www.ak.cradle.titech.ac.jp/Rise/top.htm/ ②日本語 ③英語 ④無料 ⑤音声が付いた 4 コマ漫画による日本語学習単語，フレーズ，場面で検索可能
4. **Nagoya University CMJ Grammar Online　名古屋大学**
①http://mercury.ecis.nagoya-u.ac.jp/webcmj/ ②日本語 ③英語 ④無料 ⑤『A Course in Modern Japanese』をベースにした初級前半の文型練習
5. **NHK WORLD 日本語講座 Japanese Lessons　NHK**
①http://www.nhk.or.jp/lesson/　②日本語　③英語・中国語・韓国語他全 21 言語　④無料 ⑤他言語から日本語が学べるラジオの国際放送と連動している
6. **Online Center for Japanese Studies YAMASA 言語文化研究所**
①http://www.yamasa.org/ocjs/index.html　②日本語　③英語・中国語・ドイツ語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語・チェコ語　④有料　⑤初級から上級まで 4 技能の学習ができる
7. **リーディングチュウ太　チュウ太プロジェクト**
①http://language.tiu.ac.jp/　②日本語　③英語・ドイツ語無料読解教材バンク④無料　⑤単語が辞書にリンクされているので，辞書の利用が容易
8. **外国人のための名古屋弁学習教材**
① http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~mohso/kyozai98/nagoyaben/nagoyaben.html　② 日本語　③名古屋方言日本語共通語　④無料　⑤大学生活における名古屋弁を標準語との対比で学習会話は場面で分類されているオンライン日本語練習
9. **Java Kanji Flashcards 500** ①http://www.nuthatch.com/java/kanjicards/　②日本語 ③英語　④無　　料　⑤漢字学習
10. **NIHON MURA** ①http://www.nihonmura.net/　②日本語　③英語・中国語・タイ語　④無料　⑤漢字の読み，動詞の活用などを入力して練習する

11. Kanji Step　Japanese Language Resource Center ①http://www.kanjistep.com/ ②日本語　③英語 ④無料 ⑤読み書き文法，文化などを日本語能力試験の 4 レベルに合わせて学習できる
12. The Kanji SITE ①http://www.kanjisite.com/　②日本語　③英語・ロシア語　④無料　⑤日本語能力試験のレベルに対応したかな・漢字学習
13. nPagoda　아이엔파고다　①http://www.npagoda.com/　②日本語　③韓国語　④有料　⑤入門から上級までのビデオ講座
14. webro　Daekyo　①http://webro.edupia.com/main.asp　②日本語　③韓国語　④無料・有料　⑤キャラクター豊かな初級からの学習
15. 동양문고　동양문고　①http://www.dongyangbooks.co.kr/index.htm　②日本語　③韓国語　④無料　⑤初級，中級の日本語と日本に関する話題
16. C&C Japanese　鮮文大学マルチメディア外国語教育研究所
①http://211.38.42.41:3000/　②日本語　③韓国語　④無料　⑤文化を取り入れた初級から中級の会話学習
17. Randall's ESL Cyber Listening Lab　Randall S. Davis
①http://www.esl-lab.com/　②英語　③なし　④無料　⑤聴解教材
18. TOEIC デイリーミニテスト　YAHOO! JAPAN
①http://edu.yahoo.co.jp/school/test/toeic_daily/　②英語　③日本語　④無料　⑤TOEIC 形式の問題が毎日 2 問ずつ更新される
19. ペラペラ　AEON　①http://www.perapera.co.jp/　②英語　③日本語　④無料　⑤単語・文法・リスニングなど，独立したコンテンツが毎週更新される
20. WORLD CUP 2006　WORLD CUP 2006
①http://www.t3.rim.or.jp/%7Etmnet/wordcup/index.html　②英語　③日本語　④無料　⑤WORLD CUP というシナリオ上で，単語力を伸ばす大会別で難易度が異なる
21. 英語伝　eigoden.co.jp　①http://www.eigoden.co.jp/　②英語　③日本語　④無料　⑤ダイアログで学ぶ英会話
22. tangoriki　①http://www.tangoriki.com/　②英語　③日本語　④無料・有料　⑤単語学習
23. 林義雄の英語講座　①http://www6.plala.or.jp/yhayashi/ ②英語 ③日本語 ④無料 ⑤速読，単語や文法の練習問題など
24. スーパーえいごリアン　NHK　①http://www.nhk.or.jp/s-eigorian/ja/frame.html　②英語　③日本語　④無料　⑤小学生のための英語テレビ番組のサイト教師用のページがある
25. e マラソン TOEIC®テスト 730 点コース　スペースアルク
①　http://www.alc.co.jp/campus/emarathon/730/index.html ②英語 ③日本語 ④有料 ⑤TOEIC 対策
26. アルクのたびえいご BB　スペースアルク
①http://tabieigo.goo.ne.jp/　②英語　③日本語　④有料　⑤旅行会話学習

27. Between the lions　PBS KIDS

①http://pbskids.org/lions/　②英語　③なし　④無料内容　⑤子供用英語学習教材

28. セサミ BB　KDDI

①http://www.sesamebb.com/　②英語　③日本語　④有料　⑤子どものための英語学習

29. 英語タウン　eigoTown.com

①http://www.eigotown.com/eigocollege/index.php3 ②英語 ③日本語④無料　③英語に関するコラムが毎週更新される

30. eigozai　①http://www.eigozai.com/index.htm　②英語　③日本語　④無料　⑤英語放送 VOA

Special English を利用したリスニング学習材

31. hungry for words　HungryForWords Japan K.K

② http://www.hungryforwords.com/home_v8.asp?displayid=2　②英語　③日本語・中国語　④無料　⑤フラッシュカードを利用した単語学習

32. ラジオ e 会話　①http://e-kaiwa.cplaza.ne.jp/index.html　②英語　③日本語　④有料　⑤ラジオ講座のインターネット版，場面別の会話

33. Interesting Things for ESL Students　①http://www.manythings.org/　②英語　③なし　④無料　⑤第二言語としての英語学習者のためのクイズ・ゲーム・読解などの素材

34. eTango　コミュニケーション・コンパス　①http://www.etango.jp/index.php　②英語　③日本語④有料　⑤単語学習

35. あいうえお中国語　あいうえお中国語　①http://www.etango.jp/index.php　②中国語　③日本語　④無料　⑤入門から中級まで，中国旅行をする設定で一言中国語を学習

36. Click 中国語　①http://www.tcp-ip.or.jp/~tengjing/hanyu/hanyu.html　②中国語　③日本語　④無料　場面に応じたフレーズ，文型の学習

37. パターンで学ぶ中国語オンライン　①http://www.xuexi-china.net/　②中国語　③日本語　④無料　⑤初級の文型問題

38. Online Chinese パンダと学ぶ中国語　①http://saigusa.com/　②中国語　③日本語・英語　④無料　⑤初級を場面別会話で学習

39. ホウメイ天橋　鳳鳴閣　①http://www5b.biglobe.ne.jp/~houmei/　②中国語　③日本語　④無料　⑤場面別会話，中国語に関するコラムなど

40. 紅の中国語講座　①http://www.netpot.co.jp/china/index.html　②中国語　③日本語　④無料　⑤場面別会話

41. 中国語学習室　①http://www.rockfield.net/chinese/　②中国語　③日本語　④無料　⑤中国語学習のためのコラムや資料集

42. 中国語電脳学習室　Schoin Applications　①http://www.schoin.org/hanyu/index.jsp　②中国語　③日本語　④無料・有料　⑤単語学習

43. 中国語発音学習教材　①http://home.hiroshima-u.ac.jp/cato/chinvu.html　②中国語　③日本語　④無料　⑤発音学習

44. 中文広場　①http://www.chinese1.jp/　②中国語　③日本語　④無料　⑤中国語学習のた

めの素材集発音・フレーズ・リスニングなど

45. **中文単詞館** ①http://www.danciguan.com/ ②中国語 ③日本語 ④無料 ⑤日本語単語学習

46. **日本再発見！ シーエヌエス株式会社** ①http://www.kanlema.com/inpaku/index.html ②中国語 ③日本語 ④無料 ⑤入門から上級まで文化事情を織り交ぜた学習

47. **来来中国語** http://china.spreadedge.com/中国語日本語無料クイズによる単語学習

48. **おんらいんちゃいな 関西大学外国語教育研究機構沈国威研究室**
①http://we.fl.kansai-u.ac.jp/on-china/ ②中国語 ③日本語 ④無料 ⑤会話のダイアログなど

49. **中国語上達ページ** ①http://homepage2.nifty.com/inpaku-chinese/ ②中国語 ③日本語 ④無料⑤発音練習，学習リソースの紹介など

50. **楽しい中国語教室 in 越谷時習学習館** ①http://www.k-ft.net/~kft3311a/ ②中国語 ③日本語 ④無料 ⑤初級から上級の会話，学習素材

51. **実用中国語講座**
①http://zhongguohua.web.infoseek.co.jp/ ②中国語 ③日本語 ④無料⑤旅行会話

52. **日文と中国語の交流** ①http://www.woodensoldier.info/cj/ch/index.htm ②中国語 ③日本語 ④無料 ⑤場面別フレーズと単語

53. **韓国語講座 Asiana Airlines** ①http://www.asiana.co.jp/ ②韓国語 ③日本語 ④無料 ⑤基礎と旅行の会話

54. **Tour 2 Korea 韓国観光公社**
http://japanese.tour2korea.com/02Culture/KoreanLanguage/learn_korean_language.asp?kosm=m2_8&konum=subm1_1②韓国語③日本語④無料⑤場面別会話，旅行会話

55. **韓国語の愛ちゃんネット**
①http://aichang.net/ ②韓国語 ③日本語 ④無料⑤発音•フレーズなど

56. **韓国料理を食べながらハングルを覚えよう！** ①韓国料理を食べながらハングルを覚えよう！ ②韓国語 ③日本語 ④無料 ⑤ゲームで文字学習

57. **韓国語講座 東洋経済日報**
①http://www.toyo-keizai.co.jp/community.html ②韓国語 ③日本語 ④無料 ⑤ダイアログ